

令和6年度第2回福井県立図書館運営懇話会 開催結果

日時 令和7年3月6日(木) 15:00～16:20

場所 県立図書館 2F大会議室

出席者 (委員) 長岡亜生委員、乾孝子委員、黒川照太委員、佐藤実紀代委員、塩出周子委員

(事務局) 県立図書館・ふるさと文学館職員

議事 (1) 令和6年度の利用・事業実績について

- ・利用状況
- ・下半期事業実績(図書館)
- ・下半期事業実績(ふるさと文学館)

(2) 令和7年度の取組について

- ・令和7年度の取組と達成目標(図書館)
- ・令和7年度の取組と達成目標(ふるさと文学館)

(3) その他

- ・利用に関するアンケートについて(図書館)
- ・入館者の利用分析について
- ・書店・図書館の連携について
- ・電子書籍サービスについて
- ・第4期教育振興基本計画(案)・第4次子どもの読書活動推進計画(案)(生涯学習・文化財課)

【主なご意見・ご質問】

- ・若狭図書学習センターで開催した県ALTによる「英語のおはなし会」だが、英語によるストーリーテリングを行っていないのなら、「英語のよみきかせ会」など名称変更した方がよいのではないか。子どもの読書会議の場でも間違えられやすい。
- ・自分は読書会を主宰している。読書普及事業として、昨年古本市を文学フェアで同時開催したが、周りに文学フェスタを知らない人が多かった。イベント自体は面白いので、もう少し分かりやすく広めるとよいのではないか。
- ・映画「雪の花」上映を記念して開催した高校生の読書会はどんなふうだったのか。
⇒羽水高校、仁愛女子高校、高志高校の3校で放課後に実施した。思いのほか学生たちは深く読み込んでくれ、意見も活発に出た。ふるさと文学館学芸員による解説も分かりやすく好評だった。

- 電子書籍など、デジタルのバリアフリーが進むほど、来館者数は減るのではないか。子どもの読書活動推進計画案を見て思うのは、読書がスマホに置き換わっているということ。子どもは読書の時間を無駄だと思っている節がある。ただ読書をしてくださいというだけでは、子どもは離れていくのだろうなと思う。
- 来館者や貸し出しなど数字に出て来るものだけではなく、数字に表れないものをどうしていくかが課題。
- コンテンツがデジタル化していく流れは止まらないだろう。デジタル化が進むことにより心配事は増えるかもしれないが、子どもたちも電子書籍で読めるものがあれば、紙の本の入り口となるかもしれない。子どもが読みたいと思ったときに、アクセスできる状況を整備することが重要。